

別紙様式 1

令和 4 年度広南中学校区研究推進計画

校番（2）呉市立広南中学校

校長名 坪浦 敏美

1 学校教育目標

「誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造」

2 目指す児童生徒像

- 夢を持ち、夢を語り、志を抱き、その実現に向けて挑戦する児童生徒
- 時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求める児童生徒
- 自ら課題を見付け、その解決に向けて、常に努力し続ける児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	情報収集・判断 思考・表現	協力・協働 感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究
後期	課題解決に必要な知識や技能を習得し、活用することができる。	学習してきた情報を構造化したり抽象化したりすることで、解決策を生み出すことができる。 自分の考えを、状況に応じて適切に表現したり、伝え合ったりすることができる。	他の人と協力し、それぞれの意見を分析しながら、より良いものを導き出すことができる。 感謝の心を持って、自分なりに社会へ貢献しようとすることができる。 自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。 疑問やできないことを大切に、自ら課題を進んで見だし、探究的に粘り強く学び続けることができる。
中期	課題解決に必要な知識・技能を習得し、活用することができる。	学習したことを多面的・多角的に見ることで、根拠を明確にして解決策を考えることができる。 自分の考えを、目的や相手によって、効果的に表現したり、伝え合ったりすることができる。	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力をさらに発展させることができる。 感謝の心を持って、自分なりに地域へ貢献しようとするすることができる。 自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。 疑問やできないことを大切に、自分たちで問いを立てて、粘り強く解決していこうとすることができる。
前期	課題解決に向けて必要な知識・技能を習得し、活用することができる。	学習したことの中から、比較したり分類したりしながら、解決策を選び出すことができる。 自分の考えを分かりやすく表現したり、伝え合ったりすることができる。	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。 感謝の心を持って、自分なりに家族や地域へ貢献しようとするすることができる。 自分の役割や使命を考え、すべきことを行うことができる。 課題解決に向けて、興味をもって、自分から粘り強く取り組むことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

Society5.0を生きる資質・能力の育成 ～授業改善と評価改善を通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

昨年度、広南中学校区では、授業の改善（言葉磨き・ICTの活用）及び、評価の改善していくための研究を進めてきた。

①研究実践の調査結果

教師アンケートで、『三角ロジックを使い、「自分の考えを理由を明らかにしてわかりやすく伝える授業の実践した』が75%、『授業でICTの活用の実践を行った』が100%、『授業の振り返り工夫を行った』が100%となった。

研究授業参観者の評価表結果を見ると①「言葉磨き」の調査項目「三角ロジック事実に基づいて理由づけをし、主張できる生徒の言語能力の育成につながる的確な指導ができていたか。」②「ICT活用」の調査項目「ICT等を活用して授業改善を行っているか」、③「評価の改善」の調査項目「内容のまとめりごとに、振り返りシート等を活用しながら、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育てることができたか。」「授業の中で、前時の振り返りや、予習課題や復習課題を生かした指導ができていたか。」では、参観者の目から見てすべての項目が100%の肯定的評価であった。

生徒の様子を見ると、ICTの環境整備により、タブレットを巧みに扱い、視覚的に見て理解できる授業も増え、思考を働かせる場面は充実してきた。その反面、言葉磨きの項目については、児童生徒アンケート結果から中学校では「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」の項目における肯定的評価が78%→72%となり、昨年に比べ少し数値が下がった結果となった。小学校では肯定的評価が79%→84.9%と数値は上がったが、教師の見取りでは、自分の考えを順序立てて説明したり、学び合いにつながる発言をしたりすることには課題が見られると考える結果となった。

②考察

教師がICTを積極的に活用し、評価についても振り返りが生徒の学びにつながるように工夫・改善されている。主体的に学び、思考を促す活動はできているが、言葉磨きにつながる表現場面が減っていることは否めない。ICTを使うことで見ごたえのある授業にはなっているが、板書量が減り、生徒の書く力が落ちていることが考えられる。この授業改善が学力向上に直結するののかという課題も今後研究を進めていくことで大事な視点となる。

ただし、このことは教師が研究主題に基づいて、ICTの活用を積極的にを行い、タブレットというツールを使いこなすための結果であるということをしつかり理解しておく必要がある。この難問に挑戦し、今後も継続して研究に取り組み、児童生徒の思考をまずは書いて整理し、そして自信をもって表現していく場面を充実させ、学力向上につなげていきたいと考える。

③今年度の取組

引き続き授業の改善（言葉磨き・ICTの活用）、評価を改善に取り組んでいくために、研究主題を「『資質・能力の育成』～授業改善と評価改善を通して～」とする。研究体制として「『指導力』向上部会」と「『学びがい』向上部会」の二部会構成でさらに研究を推進していきたい。「『指導力』向上部会」では、蟻の目で本時の授業の「思考を促し深める」発問・指示の工夫、「自分の考えの理由を明らかにしてわかりやすく伝える」発表の工夫～三角ロジックの活用、めあての達成に向けたICTの効果的な活用、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返りについて研究し、授業改善や評価の工夫を進めていく。「『学びがい』向上部会」では鷹の目で単元全体を見通し、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返り、キャリアノートの活用（各学年末、小中の節目）、開発した「ICT貫きカリキュラム」の実践・改善について研究し、挑戦問題の開発（つなぐ、磨く）、内容のまとめりごとの評価、「個人内評価」の工夫（Sループリック）をし、貫きカリキュラムの改善を進めていく。

(3) 研究仮説

教師：小学校では、予習や振り返りから生まれる問いについて、協働して解決していく学習展開を仕組む。その際、タブレット等を有効に活用し、思考を深める手立てとする。中学校でも、ロイロノートを活用しながら、予習・復習時に思考を深めるための課題を与え、次の授業に向けての準備をしっかりと行わせる。

生徒：そうすることで、授業での児童・生徒の思考は促され、自分の考えの理由を明らかにして分かりやすく伝え合うことで、理解も深まっていくであろう。

結果：資質・能力向上及び学力向上につながる。

5 研究内容

(1) 「指導力」向上部会の取組

小中9年間を見通した児童生徒の指導体制の確立

(児童生徒の主体性(学びに向かう力・人間性)を育てる指導の工夫)

[児童生徒の主体性(学びに向かう力・人間性)を育てる指導の工夫

【指導技術・評価の改善】]

言葉磨きとICTの活用力の向上、振り返りの充実

○授業改善

・「思考を促し深める」発問・指示の工夫

・「自分の考えの理由を明らかにして分かりやすく伝える」発表の工夫

～三角ロジックの活用～

・めあての達成に向けたICTの効果的な活用

○評価の工夫

・「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返り

[相手を大切にす礼節の校風づくり]

○生徒会活動 ○生活ルーブリック ○5つの合言葉・3つの約束

○いじめ撲滅プロジェクト

[先輩後輩・地域との絆づくり] ○絆PROJECT(異年齢交流) ○学園朝会

○広南芸術鑑賞会 ○広南学園運動会 ○広南劇場・広南寄席 ○せとうち海援隊活動

○地域行事への参画 ・小坪神楽・祭り・広子ども祭り・ふれあいサロン・敬老会

[健康・運動・生活づくり] ○部活動 ○食育の充実 ○読書活動

(2) 「学びがい」向上部会での取組

小中9年間を見通したカリキュラムマネジメント

(学習内容の学びがい(学ぶ価値・学びの質)を深める工夫)

[課題発見・解決学習の単元開発と内容のまとめりごとの評価]

Society5.0を見据えたカリキュラムデザイン

○挑戦問題の開発(つなぐ、磨く)

○内容のまとめりごとの評価の工夫

・「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返り

○「個人内評価」の工夫(Sルーブリック)

・キャリアノートの活用(各学年末、小中の節目)

○貫きカリキュラム

・開発した「ICT貫きカリキュラム」の実践・改善

[資質・能力ルーブリックの活用]

○Sルーブリックで資質・能力の価値の共有(主に総合的な学習の時間や学校行事)

[活躍・挑戦の場づくり]

○授業での活躍の場

・予習課題・復習課題の活用(家庭学習の活用)・ミニ発表会

・班発表 ・ミニ先生 ・教えあい

○校外への挑戦の場

・トリプル3(漢検・数検・英検)・各種学力調査

・二刀流(漢検・くれチャレンジマッチスタジアム)

・科学研究, 発明工夫 ・各種応募作品

・部活動の大会

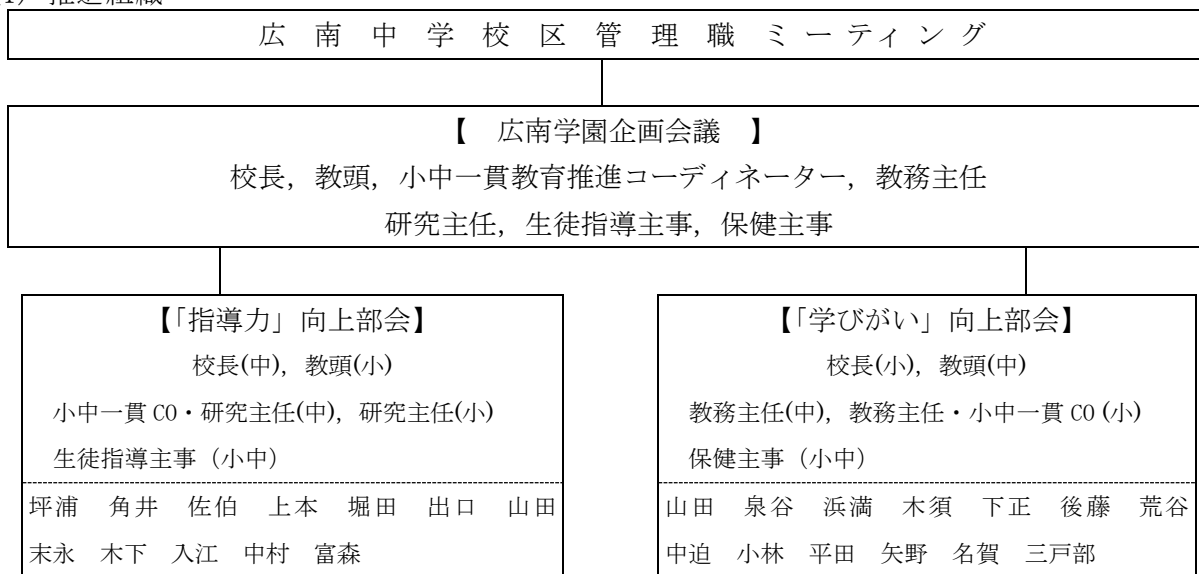
・総合文化行事, 英語暗唱, ロボコン, 話し方大会, 合唱コン

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 学びを深めるためのICTの効果的な活用ができたか	授業評価票	研究授業における相互評価値の平均（4段階評価）	—	3.0
② 授業を改善し、生徒の資質・能力を高めることができたか	全国学力調査	広島県の平均値	—	広島県の平均値
	授業評価票	研究授業における相互評価値の平均（4段階評価）	—	3.0
③ 児童・生徒が自分の考えを積極的に表現できるようになったか	教師アンケート	教職員の肯定的評価値の平均（4段階評価）	2.9	3.2
	児童・生徒アンケート	児童生徒アンケート	3.1	

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小，小→中）
（中→小）

中学校教諭と小学校教諭とのチームティーチングにより，年間を通じて実施する。

○ 中学校から小学校への乗り入れ授業

- 国語科 …第5学年 年間20時間程度
- 社会科 …第6学年 年間20時間程度
- 算数科 …第5学年 年間20時間程度
- 理科 …第6学年 年間20時間程度
- 体育科 …第6学年 年間20時間程度
- 外国語科 …第5学年 年間20時間程度

イ 小学校教科担任制等

- 第5～6学年 理科
- 第3～6学年 音楽
- 第4学年 書写
- 第5学年 算数 (TT)
- 第3～6学年 総合 (TT)
- 小学校パソコンクラブ (TT)

8 推進計画

月 日	内容	
	広南中	広南小
4月 1日	広南学園企画会議 事前打合せ (今年度の取組)	
4月 4日	広南学園研修会 (本年度の取組・組織・計画について)	
4月25日	広南学園企画会議 (5・6月の予定等)	
5月17日	広南学園研修会 (運動会予行の反省)	
5月21日	第11回広南学園運動会	
6月 1日	広南学園研修会 授業参観 (7年生)	
6月27日	広南学園企画会議 (7月の予定等)	
7月28日	広南学園企画会議 (8月の予定等)	
8月22日	広南学園研修会 (防災教育の交流, キャリア, ICT, 学習評価, アンケート分析→改善計画) カンファレンス (貫きカリキュラムづくり, 指導の工夫)	
8月22日	広南学園企画会議 (9月の予定等)	
9月30日	広南学園企画会議 (10月の予定等)	
10月13日	広南学園研修会 研究授業	
10月21日	広南学園研修会 カンファレンス(貫きカリキュラムづくり, 指導の工夫)	
10月31日	広南学園企画会議 (11月の予定等)	
11月25日	広南学園研修会 研究授業	
11月29日	広南学園企画会議 (12月の予定等)	
1月 5日	広南学園企画会議 (1・2月の予定, まとめに向けて等)	
2月 1日	広南学園研修会 (本年度のまとめ, 資料持ち寄り)	
2月20日	広南学園企画会議 (本年度のまとめ)	
3月15日	広南学園研修会 (来年度に向けて, 各部会の報告)	
3月15日	広南学園企画会議 (来年度に向けて)	

9 その他

令和4年度 広南学園 学園朝会 計画

月 日	内 容
4月12日	職員紹介 児童委員会・生徒会執行部紹介 礼節, 集団訓練 広南学園運動会 結団式
5月 6日 全体練習時 (グラウンド)	運動会に向けて 気をつけの姿勢と深い礼 運動会のテーマとスローガン

6月 7日	第1回いじめ撲滅キャンペーンの取り組みについて
10月12日	いじめ撲滅標語の表彰式
11月 8日 文化の日に近づ けて古典の日の 取組として	五色百人一首集会 「古典に親しもう」
12月 6日	広南学園遊び 縦割り遊び
2月 7日	9年生を送る会

・小中一貫だより（年2回発行予定）

※ 研究構想図、カリキュラムマップを添付する。